

部活動について

菊地 忠久



〔質問〕休日の部活動の、段階的な地域移行に向けた実践研究の成果と課題を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕休日の部活動については、令和5年度から段階的に地域に移行していくことが国の方針である。

経験豊富な指導者により、質の高い指導が実現し、また、指導者同士の横のつながりから、他校との合同練習も行われている。

競技性の高い専門的指導の提供を行うことで、生徒の満足度は高く、地域部活動としての一定の価値を見いだすことができた。

また、教員の働き方改革は重要な課題であ

り、部活動も大きな要因の一つであるが、アンケートによると、半数の教員が「大幅に負担が軽減された」と回答している。

課題としては、指導者の確保が挙げられ、スポーツ協会、各競技団体のご理解、ご支援が不可欠である。

また、指導者の本業への副業申請許可に、時間を要したケースがあったことから、本事業の認知度の向上と、本業への依頼方法も今後の課題であると考えている。

〔質問〕将来的には、平日においても部活動の地域移行を検討すべきと考える。

その受け皿の一つとして、総合型地域スポーツクラブが選択肢となり得る。

総合型地域スポーツ

クラブと部活動の地域移行の関わりについて所見を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕今後、実践研究成果やノウハウを生かし、総合型地域スポーツクラブの設立促進を図っていく。

その主要事業の一つとして、地域部活動事業の運営が位置づけられることを目指したいと考えている。

〔質問〕総合型地域スポーツクラブ設立に向けた検討状況を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕令和4年度末までの創設を目標に、検討協議を加速していきたい。

実現可能な事業や体制等について検討を重ね、設立に向けた具体的な準備を進めたいと考えている。

〔その他の質問〕

◎子ども家庭庁について

◎障害者手帳アプリについて

◎ゼロカーボンシティ宣言について

子どもの貧困について

佐藤 龍彦



〔質問〕最近の、子どもの貧困問題に対する認識について伺う。

〔答弁〕〔市長〕新型コロナウイルス感染症の影響により、雇用情勢が不安定になり、収入が減少している世帯があると聞いている。

子どもの貧困は世帯の貧困でもあることから、生活資金などに困窮している場合は、福祉事務所に相談いただきたい。

〔質問〕本市において、子どもの貧困に該当する事例はあるのか。

〔答弁〕〔保健福祉部長〕子どもの貧困に該当するような事例は把握していない。

〔質問〕子どもの貧困に

対する課題を伺う。

〔答弁〕〔保健福祉部長〕本市ではそのような事例はないと考えているが、子どもの貧困問題は、相対的に学習環境がよいとは言えない場合もあり、受けた教育が受けられないことにより成績などの問題を抱え、さらに不安定な雇用などに結びつき、低収入になるなど、貧困の連鎖が懸念される。

〔質問〕本市が子どもの貧困に対し、実施している支援策を伺う。

〔答弁〕〔保健福祉部長〕白石市社会福祉協議会へ委託し、子どもの学習支援事業を実施している。

この事業には所得要件はなく、参加している子どもたちが貧困に陥っているかどうか確認していないが、生活保護世

帯、児童扶養手当受給世帯、準要保護世帯の小中学生から高校生を対象に、週1回の学習支援などを実施している。

〔質問〕今後の本市の取り組みについて伺う。

〔答弁〕〔市長〕子どもの貧困問題は、社会的損失につながりかねない問題であることから、貧困を断ち切ることが必要である。

具体的には、社会福祉協議会の総合支援資金の貸し付けや、新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化事業費などを活用しながら、生活を安定させた上で就職に結びつけていきたい。

〔その他の質問〕

◎インボイス制度について

◎東京電力福島第二原発にたまる処理水は安全とするチラシが学校に配布されていることについて